

God hand power (ごっ飯パワー)

中学生から数えると、10年以上も英語の授業は受けたことになるんだけど、きっと皆さんと同じように、さっぱり身につけていません。もう時効だと思うので告白すると、学生時代、友人に代わりに試験を受けてもらって取った単位もあるほどで、もう自慢したいくらい苦手でした。

というのは余談だけど、だいじな前置き。で、以下が本題です。

*

8月に、短時間でしたが、英語を駆使して接待をしました。北茨城市国際交流協会のSさんから電話をいただき、ガーナから来ているお客さま2人に農業機械を見せたいとのことでした。突然のお話でしたが、例よっての行き当たりバッチリで・・・

お一人は作物栽培が専門で、もう一人が農業機械が専門だと紹介をいただきました。それを聞いて、さっそく豪語です。

「チッチッチ。イン・ジャパン、ファーマー・イズ・コールド、ヒャクショウ。イツ・ミン、ア・ハンドレッド・カインズ・ウァーク。アイ・ドウ」

「オー・イエス。ユー・アー・グッド・ファーマー」

「サンキュー。アイ・セイ、ディス、マイ・ハンド・イズ・ゴッド・ハンド」

「オーケー、ワンダホー」

*

また、いつも吹聴していることですが。

「ライス、イン・イングリッシュ。バット、イン・ジャパニーズ、メニー・ネーム」

「？」

「エギザンポー、オン・ファーム、コール・イネ。アンド、アフター・ハーベスト、コール・モミ。カワラムクト、コメ。アンド、ポイルド、ゴハン。バット、イン・イングリッシュ、ライス、オール」

「！」

「バット、イン・イングリッシュ、オックス・アンド・カウ。インジャパン、ウシ、オンリー」

「スモール・エイジ、カーフ」

「オー、イツ、イン・ジャパニーズ、スモール・ウシ、トゥー」

「イーツ、ビーフ」

「ウシ・ノ・ニク、トゥー」

言葉は文化であり、民族そのものだという例のつもりだったけど。

「ワード・イズ・カルチャー。ランゲッジ・イズ・ライフ」

はたしてどんなふう聞いてもらえたのか。

*

さらに錯誤中の自作抑草器「カル



アフリカでは、農薬が高価で、買えない生産者も多いということを聞いて、自作の抑草器「カルコン」を自慢。ただし、これって昨年の失敗作なんだけどなあ・・・

コン」も見てもらったほか、雄と雌がいる鶏舎の前では・・・

「ポピュラー・ポートリー、イン・ジャパン、ヘン・イン・ケージ。ヘン・オンリー。バット、マイ・ファーム、オン・グランド、ヘン・アンド・クック、ツゲザー。ゼイ・リブ・ナチュラリー、アンド、ノン・ストレス。ポーン、フレッシュ・エッグ」

「ワンダホー。グッド・ファーム」

*

いっしょに写真を撮ろうと誘っても乗ってこなかった次女(高校生)は、後から「父ちゃん、通じてたじゃん！」とほめてくれたけど・・・



シリーズ「ハ細工台貧乏」

軽トラをダンパーカー